第６分科会　社会を形成する力

研究課題

社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

Ⅰ　趣　　旨

平成25年度からテーマを「社会を形成する力」とし，「キャリア教育」と重複している部分を整理し，異なる視点から教育課程の編成・実施・評価･改善をしていくための校長の役割と具体的な方策について究明することとした。

「社会を形成する力」とは，「自分の役割を果たしつつ，他者と協力して社会の様々な活動に参画し，今後の社会を積極的に形成していこうとする力」と押さえる。

近年，社会が複雑多様化し，子どもを取り巻く環境も大きく変化してきている。とりわけ，グローバル化や少子・高齢化の進展，格差社会や核家族化などによる家庭の養育姿勢や地域コミュニティの変化に伴い，地域活動への参加機会は減少し，子どもたちが社会性を高めたり，人間関係を育み広げたりする機会は減少の一途をたどっている。

一方，東日本大震災等の被災地においては，避難所運営やお年寄りの世話，そして地域復興に向けたボランティア活動や支援活動を通して，地域の人たちとの絆が改めて見直され，地域コミュニティの形成，発展がますます重要となってきいる。

こうした状況を踏まえ，教育政策においても，教育基本法，学校教育法，第２期教育振興基本計画等で，「社会を形成する力」を培っていくことの重要性が明確に示されている。

本分科会の研究課題は，「社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方」である。

リーダーシップの視点１は，「社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造」「地域の一員としての自覚を促す取組はどうあればいいのか」など，社会に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための校長としての具体的な方策を明らかにしていく。

リーダーシップの視点２では，「自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善」の段階で地域との関わりを深めるために，各教科の特性を意識した学習内容や地域素材の活用など，学校が主体となって取り組むべきものの整理や教科で醸成した知識や技能を社会の活動に積極的に活用する姿や態度に育てていくための校長の果たすべき役割と指導性，その在り方について明らかにしていく。

Ⅱ　研究発表及び協議

1　研究発表

「社会を形成する力の育成を目指す
教育課程の編成と校長の在り方」
～社会に貢献する力の育成を目指す教育課程の推進～
～自立した社会人を育成するための
教育課程の編成・実施・評価・改善～
オホーツク地区　北見市立相内小学校　河原　　賢

2　研究の概要

北見市小中学校長会小学校部会では，各校において既存の教育活動について「社会を形成する力」に視点をおいて見直し，地域の活動を生かす学校の関わりや教育課程の編成について，校長としての役割と指導性を究明することにした。昨年度は，各校の地域と関わる教育活動の交流や，自校の既存の活動について「社会を形成する力」の具体的要素にあてはめた実態把握に努めた。今年度は，市内の児童や小学校の現状について傾向を分析するとともに，各校での実践を中心としながら研究を深めている。

(1)　「社会を形成する力」に関わって，平成25年度～27年度の全国学力・学習状況調査児童質問紙の結果から見る北見市内児童の実態

(2)　北見市内の小学校の教育活動における「社会を形成する力」の具体的要素の傾向と今後の課題

3　具体的な実践例

総合的な学習の時間に位置付けた各校の特色ある取組を進めている。

(1)　社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造

①　社会との関わりを豊かにしていく力を身に付ける体験活動（「木育体験等を通した環境保全ボランティア活動」）

② 他者と協力して社会の活動に参画し，貢献しようとする意欲や態度を身に付ける教育活動（「地域の高齢者との交流」）

(2) 自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善

① 社会に積極的に関わろうとする態度の育成を目指した教育課程編成の実践（「町内クリーンアップボランティア活動」）

② 社会づくりに貢献しようとする力の育成を目指した教育課程編成の実践（「農業体験・工場見学」）

(3) その他の実践

① 「社会を形成する力」の全体計画を作成

② 「社会を形成する力」についての各種全体計画に具体的要素がリンクできるかどうかを確認

③ 教育活動と具体的要素の関連表を一部作成

④ 小中連携の模索について検討

4 まとめ

○ 学校と地域の連携においては，学校・地域関係者双方の要望に応える教育課程を編成することで，子どもは校内外の多様で豊かな体験ができ，興味・関心が広がり「社会を形成する力」の育成につながる。

○ 地域社会と関わる様々な体験活動を通して，子どもにどのような力が育つのかを明らかにする。地域の人材を生かした体験活動が，地域のために自分たちは何ができるかという双方向の活動となるように働きかけることで，地域の学校であるという意識が子ども・教職員に定着しつつある。

○ 自校の教育活動の中で，地域社会と一緒にできるものは何か，学校は地域社会の中でどんな役割を果たすのか，何ができるのか，そういったことを考え整理していく。すなわち，学校と地域社会の間に立ち，結び付けていくことこそ校長の役割である。

● 地域の学校という意識を教職員にさらにもたせ，学校と地域をつなぐ教育活動，地域の素材・人材を生かした活動を取り入れていく必要がある。

● 継続している実践の見直しを図ることで，より効果的な指導実践へと発展することも考えられる。ＰＤＣＡサイクルを活用し，改善を意識した実践となるように校長として助言していくことが大切である。

5 研究協議（グループ協議から）

(1) 討議の柱１

「社会を形成する力を高める教育課程の編成と校長の関わり」

①校長は改めて「社会を形成する力」の育成の重要性を再認識し，教育課程への位置付け等に，リーダー性・指導性を発揮しなければならない。その上で，学校・地域・関係機関等が有機的に作用し合うカリキュラムマネジメントを以下の手順で組織を挙げて推進していくことが大切である。

②まず，「社会を形成する力」の重要性について，職員に伝え共通理解を図り，その育成を目指す全体計画（提言で示された例にあるような構造図等）を作成する。

③次に，「社会を形成する力」の育成につながると思われる現状の校内外の諸活動をすべて洗い出し，目指す子ども像にかかわる６つの具体的要素の観点から価値付け３つの視点で整理する。

ア．現状の取組を再編する。

イ．現状の活動の表面的なねらい・目的の裏側に潜む「社会を形成する力」につながる部分を顕在化させる。

ウ．学校課題・地域の実態やニーズに応じた新たな取組を構築する。

④現行のもので成果・効果が疑問視されるものや，子ども・学校の負担過多になっているもの等は，地域のニーズや認識等を正確・慎重に見極め，説明責任を十分に果たしながら精選していくことも必要である。

⑤整理された個々の活動について，「社会を形成する力」の６つの具体的要素との関連表を作成する。

⑥こうして具体化・計画化した校内外の教育活動を改めて教育課程に明確に位置付ける。

(2) 討議の柱２

「地域の活動を生かす学校の関わりと校長の指導性（校内での関わり・地域での動き）」

①校長は地域とのパイプ役であり，率先して地域の情報収集や学校からの発信に努めなければならない。

②情報収集にあたっては，都市部と郡部の特性による学校へのニーズ・意識等の違いや，校区内各地域の実情の違い等を正確に把握することが大事である。

③パイプづくりに際し，教育行政機関との連携を工夫し役割分担できれば，パイプ機能がさらにアップする。このことは，教頭の業務軽減にもつながる。

④地域からの情報に関し，「社会を形成する力」の育成という観点から学校教育に生かせるものを洗い出し，今取り組んでいる活動と比較・精査した上で，地域との連携に関わる経営ビジョンを職員へ明確に示す。そして，教育課程の改善・充実に向け組織的に取り組む必要性・重要性を共有する。

⑤地域における子どもたちのさまざまな活動を，「社会を形成する力」の観点から価値付け，職員に伝えることも，校長としての重要な役目の一つである。

⑥「社会を形成する力」の育成をめざす教育活動が真にその成果を上げるためには，人と関わる言語力の向上，望ましい生活習慣の定着等，日常の学級経営の充実が前提条件であることを，職員へ指導していく。

Ⅲ まとめ

本分科会では，「社会を形成する力」の具体的要素を６点に集約し，これらの力を子どもたちに身に付けさせる教育活動の充実を図ることを目指した。

６つの具体的要素とは，
１点目が，「役割と責任を自覚する力」
２点目が，「対象や他者に働きかける力」
３点目が，「他者を共感的に理解する力」
４点目が，「リーダーシップ」
５点目が，「コミュニケーション力」
６点目が，「チームワーク」である。

1 まとめ

(1) 地域との連携

地域に密着している小規模校においては，校長自身がパイプ役として関わることが多く，規模の大きな学校では自治体と関連する機関と校長自身が積極的に関わっている。ともに校長として，自校の課題に照らし合わせて，フットワーク軽く「動く」ことが大切である。

(2) 機動的な組織

校長がつないだパイプに水を流すための具体的な取組が重要となる。教頭を中心とした校内の組織であり，その組織作りについても校長のどんな活動でどんな子どもを育てるのか等のビジョンを示し，実践することが大切となる。

(3) 職員の意識改革

自校で行われている地域活動での内容や様子を職員に知らせ，成果や課題を共有し，地域での活動の重要性を理解させる等，意識改革を図る必要がある。そして，教職員という集団だけから学ぶのではなく，多くの人と子どもたちを関わらせることで，その望ましい成長，ひいては「社会を形成する力」の育成にも関与できる。

(4) 教育課程への位置づけ

「社会を形成する力」といきなり大上段に構えずに，「人としてよりよい社会を創り上げようとする意識付け」のために，まず，自校の教育課程の中にどんな活動があるのかを確認し，新たに必要な活動をどう設定すればいいのか，子どもたちの実態から職員全体で構築することが重要である。

(5) 全体計画の必要性

各校が「社会を形成する力」の全体計画や教育活動における６つの具体的要素との関連表を作成することにより，目指す方向が明確になり，教育活動が充実する。

2 成果

(1) 地域との連携

学校と地域との連携を密にして，地域からの要望に応えていくための教育課程の編成により，多様で豊かな体験ができ，児童の興味・関心が校外に広がる。

(2) 地域との連携

地域の人材を生かした体験活動とあわせて，地域のために自分が何ができるのかという双方向の活動により，地域の学校であるという意識が子どもにも教師にも強まる。

3 今後の視点

地域の学校という意識を教職員にもたせ，地域の素材・人材を生かした学校と地域をつなぐ教育活動を取り入れることが「社会を形成する力」の育成には欠かせない。また，この教育活動をＰＤＣＡサイクルを活かし，実践の見直しを図ることで，より効果的な実践にする必要がある。

次年度から，本分科会「社会を形成する力」はキャリア教育の分科会と統合される。統合により，勤労観・職業観を育むキャリア教育と社会を形成する力を育む教育の更なる充実を願っている。

北見市立相内小学校の河原校長先生の提言を受け，道内の各小学校の取組を交流することで，大変有意義な分科会であった。今日の成果を各管内，各学校へ持ち帰り，今後，より充実させていただければ幸いである。

「第６分科会に参加して」

網走市立呼人小中学校　**伊　井　俊　明**

本分科会では，北見市立相内小学校河原校長先生から，北見市内における「社会を形成する力の育成を目指す取り組み」「成果と課題」の提言を受け，グループ討議を行いました。

私の所属した第５グループには，司会と記録がいないというハプニングがありましたが，福島町立吉岡小学校小野寺校長先生に司会をお引き受けいただき，討議が行われました。

グループ討議では，それぞれの学校の取り組みや地域性，保護者の協力，成果や課題について交流をしました。比較的同じ規模の学校の校長先生が集まったグループでしたが，町内会が機能していない，管理職住宅がないなど，学校を取り巻く環境の違いから取り組みにも差があることを感じました。討議から大きく４点，①すでに行われている「社会を形成する力」を育成する取り組みをいかに価値付けしていくか，②地域とのパイプ役としての校長の役割，③教職員の意識改革，④地域性を生かした取組の推進が重要であるとまとめられました。

今年度，初めて北海道小学校長会教育研究大会に参加させていただきました。課題を明確に把握すること，そしてその課題解決に向けて校長としてどう戦略をもって取り組むか学ばせていただきました。ありがとうございました。